



第10回 琵琶湖地域の 水田生物研究会

2019年 12月15日(日)
10:00~17:00

会場：琵琶湖博物館 別館
(滋賀県草津市下物町 1091 番地)

★例年と会場が異なりますのでご注意ください。

研究発表

全国から集まったさまざまな人たちによる、
さまざまな田んぼの生き物研究です

- 一般講演① 10:10~11:25
- ポスターセッション 11:30~12:20
- 一般講演② 13:30~14:30

ミニシンポジウム 14:40~16:50

「田んぼにはなぜ多様な生きものがすむのか」

同タイトルの書籍を、琵琶湖地域の水田生物研究会に集まった、11人の仲間たちで出版準備中です。本シンポジウムでその内容の一部をご紹介します。

■話題提供

- 鈴木隆仁：田んぼのイタチムシは、なぜこんなに多様なのか
- 中西康介：農業は水生動物群集に影響を及ぼすか
- 田和康太：水管理は水生動物群集に影響を及ぼすか
- 嶺田拓也：かつての水田雑草は、なぜ絶滅危惧種になったのか
- 大塚泰介：田んぼにしかない生物は、田んぼができる前にはどこにいたのか

■問い合わせ先■

琵琶湖博物館 大塚泰介・金尾滋史・鈴木隆仁
電話：077-568-4811
E-mail: ohtsuka-taisuke@biwahaku.jp

どなたでもご参加いただけます
事前申込不要、入場無料



第10回

琵琶湖地域の水田生物研究会 プログラム

■ 10:00 ~ 10:10 開会あいさつ・諸注意

■ 10:10 ~ 11:25 一般講演①

山崎真嗣：湛水初期の水田はミジンコ食のウズムシでいっぱいだった

市川憲平：虫もカエルも田んぼへの入水を待っている

西田一也・馬淵浩司・吉田誠：魚は農業排水路のどこで卵を産むのか？—湖北における2019年5月の調査結果—

矢部隆：ニホンイシガメによる水田やため池の生息場所としての利用

山川栄樹：形態測定を用いたカイエビ類の同定について

■ 11:30 ~ 12:20 ポスターセッション

渡辺圭一郎：滋賀の水田に潜む謎のワムシたち～その知られざる実態

奥川陽平・櫻井哲平：なぜドジョウは田んぼで生息することができるのか

中西康介・北野大輔・大久保卓也：

中干しが水田を利用する水生動物群集に及ぼす影響—実験圃場を用いた3年間の調査報告

馬淵浩司・西田一也・吉田誠：

産着卵のDNA種判別にもとづく長浜市・益田川におけるホンモロコ・ニゴロブナ・在来コイの産卵確認

渡部恵司・嶺田拓也・小出水規行・山岡賢・濱田康治：農業水路の魚の棲みやすさの評価法

林紀男・今津健志：印旛沼水系で見られるカミツキガメ

木本裕也・渡部恵司・山下博康・齊藤光男・西田隆義：

京都府亀岡市におけるトノサマガエル属（*Pelophylax*）の保全生態学的研究：ロガーを用いた広範囲鳴き声調査

山田七緒子：大垣市におけるツバメの営巣記録（2008-2019）

雁爺とゆかいな仲間たち：市民によるガン類の日中の分布調査結果 2018

谷口倫太郎・新玉拓也・峯和也：亀山里山公園「みちくさ」における里山塾の取り組み

北野大輔・金尾滋史・大塚泰介：求む！滋賀の生き物情報「淡海生物」原稿募集中

大塚泰介・北野大輔：公開近づく！田んぼの生きもの全種データベース

■ 13:30 ~ 14:30 一般講演②

浅野悟史・上原佳敏・石田卓也・池谷透・奥田昇：農業のやり方ひとつで生き物がかわる

古谷愛子：水田魚類増殖事業 すっこけ問題

田和康太・佐川志朗：豊岡市の水田水域における自然再生が水生動物群集とコウノトリに与える効果

中井克樹・林紀男・嶺田拓也・稗田真也・野間直彦：

水田に侵入する特定外来生物指定の「水生」植物：ナガエツルノゲイトウとオオバナミズキンバイ

■ 14:40 ~ 16:50 ミニシンポジウム

「田んぼにはなぜ多様な生き物がすむのか」

鈴木隆仁：田んぼのイタチムシは、なぜこんなに多様なのか

中西康介：農業は水生動物群集に影響を及ぼすか

田和康太：水管理は水生動物群集に影響を及ぼすか

嶺田拓也：かつての水田雑草は、なぜ絶滅危惧種になったのか

大塚泰介：田んぼにしかない生物は、田んぼができる前にはどこにいたのか

■ 16:50 閉会挨拶

■ 17:00 終了

今年の発表は **26 題！**

田んぼの生き物を、
ともに語り合しましょう。



■交通のご案内

- 電車とバスでは、JR琵琶湖線「草津駅」西口から近江鉄道バス「からすま半島」行きで「琵琶湖博物館前」下車。（約25分）
- お車では、名神高速道路を利用し、「栗東I.C.」から約25分。